

我が国周辺水域資源調査推進事業

【平成20年度概算決定額 1,623（1,613）百万円】

対策のポイント

現在、我が国周辺水域の水産資源の多くが低位水準となっている中で、水産資源の適切な管理に資する資源評価を実施します。また、海洋環境等による水産資源の変動機構の解明のための調査・研究を実施します。

（我が国周辺水域の資源変動について）

水産資源と海洋環境の関係については、例えば、近年、マイワシの資源量が急激に減少してきている原因として、最近の研究成果によれば、稚魚の生育場となる海域の餌環境が良くないことや成長過程での水温の違いによる成長速度の違い等の海洋環境の変化により、稚魚の生き残りが悪くなつたと考えられています。

政策目標

低位水準にとどまっている水産資源の回復・管理の推進
資源回復計画の着実な実施

＜内容＞

（1）資源評価調査事業

国が進める様々な資源管理施策を推進するため、我が国周辺水域における主要魚種(TAC 対象魚種又は資源回復計画対象魚種等)の資源評価に資するための資源調査を実施し、資源管理・回復に必要な科学的調査データの収集及び助言を行います。また、調査によって得られた科学的調査データについて、近年の地球温暖化による大規模な環境変動が水産資源に与える影響を評価・解明するための整理・体系化を行います。

（2）資源動向要因分析調査事業

海洋環境の変動による水産資源の影響を調査し、資源変動メカニズムを究明します。また、水温・塩分・潮流等のデータを活用し「我が国周辺海洋大循環モデル」により作成された欠測のない再解析メッシュデータをもとに、中・長期的な資源動向を把握するため、マイワシ等の重要魚種の卵稚仔輸送プロセスを明らかにします。

（3）資源評価広報等指導事業

主要浮魚資源の長期漁況海況予報、資源評価の結果等の公表及び資源管理措置への指導を行います。

（4）大陸棚定着性生物資源調査事業

大陸棚の拡大を見据え、拡大が見込まれる海域の資源管理検討に向けた定着性生物資源の調査を実施します。

（事業実施主体：民間団体等）

[担当課：水産庁漁場資源課（03-6744-2377（直））]